

参加者コメント PARTICIPANTS' COMMENTS

パートナー・コース研修生

01 藤澤 康次さん 北海道ブロック(公務員)



私は、現在、北海道の中富良野で中学校の校長をしています。Ⅱ期のインターンシップに参加した同僚から話を聞き、夏休みを利用して参加しました。グラウンドワーク三島での集合研修、そしてグラウンドワーク西神楽でのOJT研修を通して、「地域の役に立ちたい」という漠然とした思いが、「自分が何をすべきか」そして「何ができるか」を考えるようになったことを実感しました。今回の経験を、具体的に地域でいかしていきます。

02 吉田 幸子さん 東北ブロック(NPO等の有給スタッフ)



「思いは熱くても、途中で冷めてしまっただけでは意味がない。続けてきて初めて成功できる」という渡辺グラウンドワーク三島事務局長の言葉に、大きくうなずきました。集合研修では、事業を継続するためのマネジメント、対人・対社会能力、そしてその手法としてワンコイン英会話や企業・行政とのパートナーシップなど、具体的な事例をたくさん聞くことができて参考になりました。自分が所属している団体の飛躍につながります。

03 梶原 賢一さん 首都圏ブロック(学生)



友人の紹介で、インターンシップに申し込みました。集合研修では、講義や実践地視察も素晴らしかったです。そして、これほど多くの学生や社会人の方と交流し、情報や考えなどを交換したのは、人生で初めての経験で、大きな財産となりました。ここでできたつながりを大事にしていきます。そして今後、一層アンテナを高く張り、ネットワークを構築し、アクションに移していきたいです。

04 山本 祥平さん 関東ブロック(求職中)



大学で市民社会について学んだこともあり、NPOの活動現場を見たいと思い、参加しました。グラウンドワーク三島の手法・経験を知り、興味深く思いました。そして、起業を目指す全国から参加した皆さんとの出会いが刺激となり、それまで受け身になりがちだった考えや行動が変わりました。社会のために自分ができていることを積極的に行動に移すため、8月から環境NPOでアルバイトを始めました。

05 松本 秀次さん 東海ブロック(NPO・ボランティア団体関係者)



現在、ボランティア活動に携わっている私は、地域ビジネスやNPOの役割、マネジメントについて学んだほうが良いと勧められ、インターンシップに参加しました。「実践力」と「問題解決力」が最も大切であり、「現実」を問題意識をもった新しい視点で見ることができれば、課題解決にむけた新しい方法(ビジネスチャンス)を見いだす(構築する)ことができるということを学べたと思います。今後は、地域資源と密着し「わくわくするビジネスプラン」を展開していきたいと思っています。

06 野田 宏規さん 阪神ブロック(学生)



集合研修のグループワークでは、様々な事業に精通している方などの意見をたくさん伺うことができ、参考になりました。研修期間中、常に心がけていたことがあります。それは、こうした方々との一期一会の出会いを大切に、積極的にコミュニケーションをとることです。気の合う友人ができ、研修を終えた今も連絡をとりあっています。

07 山本 京子さん 近畿北陸ブロック(会社員)



高校で農業技術を学んでいる娘と共にインターンシップを受講しました。農業を仕事にしていくにはどうしたらいいか学ぶため、OJT研修は、「農業組合法人サンファーム法養寺」に行きました。単に収穫や販売をするのではなく、地元作業所の人たちに収穫・販売をしてもらうことで、事業の幅を広げていることを知り、大変勉強になりました。

08 影山 露子さん 中国ブロック(主婦)



NPOとはボランティアの集まりによる活動だと思っていましたが、集合研修の中で、お金を稼ぐことで持続性を担保し、社会的課題を解決していく主体でもあることを学びました。自分のビジネスプランについても、皆さんにいただいた貴重なご意見を参考に、きちんとまとめます。

09 磯辺 文雄さん 四国ブロック(求職中)



私はOJT研修先として、生態系トラスト協会を選びました。ナショナル・トラストが、日本でどのように定着しているのかわりたかったことと、その活動が地域の活性化にどのように繋がっているのかが現地で学びたいと思ったからです。マイロチョウが生息する森の環境をそのまま保護するダイナミックな手法を知り、環境が地域の活性化につながることを確認することができました。この経験を参考に、今後自分自身の思いを形にしていきたいと思います。

10 岩本 英二さん 九州・沖縄ブロック(求職中)



私が解決したいと考えている社会的課題は「子どもの遊び場が減っている」ということです。集合研修では、この問題意識と解決方法を、具体的かつ正確に表現する点を常に意識して参加しました。講義とワークショップが大変参考になりました。今後はこの問題意識と解決方法をより具体化し、研修で学んだこと、身につけたことを活かして、自らの地域での行動につなげます。

エキスパート・コース研修生

01 須藤 憲一さん NPO・ボランティア団体関係者



私は、会社を定年になった後、市民活動に携わっており、もっとNPOの可能性について学びたいとの思いから、インターンシップに参加しました。運よく、エキスパート・コースまで進むことができ、グラウンドワークの本場・英国での研修で、貴重な経験を行うことができました。また、所属団体で4名の研修生に対して、OJT研修を提供する機会にも恵まれ、パートナーシップを構築する大切さと、それを社会に広げていく難しさの両面を実感しているところです。

02 鈴木 正之さん NPO等の有給スタッフ



エキスパート・コースの目玉は、英国研修でした。研修は、ロンドン集合・解散で、航空券の手配などを含め、全て自分で行いました。リバプール、バーミンガム、ロンドンと回り、充実した7日間を過ごしました。最も印象に残ったのは、英国グラウンドワーク本部で副代表と懇談し、グラウンドワークの現状と今後の方針を聞き、また本部ビルの前を流れる運河(環境改善の実践地)を視察したことでした。研修生仲間にも恵まれ、よい研修となりました。

03 久野 真嗣さん 学生



現代においては、個人の力がますます重視されるようになってきていると思います。また今後は「自助自立した社会的企業」が重要性を増すと考えており、特に英国の先進的な社会的企業について学び、自分の実力を高めるために、エキスパート・コースに申し込みました。英国では、社会的企業を支える「人」を大いに感じる事ができ、その「想い」が「繋ぐ」意識の重要性を肌で感じる事ができました。今後の活動にいかします。

04 池内 千紘さん 学生



私は、人と動物が共存できるコミュニティ作りの団体を立ち上げたいと思っており、そのマネジメントを学ぶために研修に参加しました。特に、英国研修では、先進的な社会的企業を視察できただけでなく、風景や人の考え方も含めて見聞することができ、大変刺激を受け、また理解が進みました。今後は具体的な形にしていきたいと思えます。

05 山崎 比奈子さん 会社員



パートナー・コースの集合研修で学んだ英国の社会的企業の現場を、実際に見てみたいと思い、エキスパート・コースに応募しました。現地では、様々な社会的企業を訪問し、働いている方の生の声を聞き、職場の雰囲気を感じることができ、とても刺激を受けました。ビジネスプランを応募したところ、インキュベーション事業の支援を受けることになり、東海道を楽しく歩くシステムをつくるNPO法人を立ち上げることができました。

06 猪飼 功示さん 起業準備中



グラウンドワークについての学びを深め、また集合研修の運営支援を行うことでサービスの提供者としての視点を学びたいと思い、研修に参加しました。現在、地域資源を活かして富良野の自然を守る活動をしています。エキスパート・コースでは、その事業展開を考える上でも、具体的なヒントをたくさんいただきました。次年度中にはNPO法人化し、より一層地域密着型の組織づくりを進めて、事業の継続性を確保したいと思います。

01 安東 志津子さん みいこの家(個人事業主)



私はこれまで福祉の仕事に携わってきました。現場では、効率化とサービスの向上が求められています。しかし、効率化は、入所者やご家族の方に施設からの追い出しという不安を与えています。この経験から「介護や子育てを地域で支えるシステムを作り、不安を取り除くことができなにか」という考えに至り起業を決意しました。将来的には、高齢の方を対象に、障がいをもつ方や小さな子どもや親も気軽に集えるサロンを考えています。

02 奥田 達也さん 特定非営利活動法人グラウンドワーク和歌山 代表



人が自分らしく働ける社会を作る！就職先が見つからない友人や、就職したが退職し求職活動をしている先輩たち。そんな人たちと接し、私はこのような思いを抱きました。そして内定先を辞退・大学を卒業し、「雇用におけるミスマッチをなくす」ことを目標に活動開始しました。今後は第一弾事業として和歌山県で実績を生み、まずは日本全国での事業実施を実現するため、地に足つけながら夢に向けて走り続けます！

03 吉川 明秀さん 鳥取在来小そば生産グループ 代表



山間地の農業は、後継者不足により農業従事者の高齢化が進行し、数年後には農地荒廃の拡大が懸念される状況です。政治的には環太平洋連携協定(TPP)への交渉参加、米の先物取引などと先行き不透明です。地域が協力して立ち上がらなくては、地域の農地、文化は守れないとの思いから、鳥取在来小ソバの生産、加工、販売を経営の基幹として起業いたしました。当面は個人事業としてスタートをします。6次産業の認定を受けるなど実績を積み重ね地域の農業を守る営農法人の設立を目指しています。

04 高橋 洋美さん 伊豆のお針子無生庵(個人事業主)



私がかねてより、自身の手仕事を障がい者と共に有意義な社会活動にしたいという、「想い」がありました。この度、インキュベーション事業に採択されたことが、その想いを「行動」に結びつけるきっかけとなりました。起業支援期間中、当初予想していた以上の成果も収穫もありましたが、事業という域に到達するまでには、まだまだかなりの努力が要されると思います。社会的起業家としての誇りとスタンスをぶれることなく着実に継続していきます。

05 佐藤 正明さん 農業支援守り人西神楽(個人事業主)



私は旭川で、大規模な高齢者農家の支援をしていました。グラウンドワーク西神楽より、グラウンドワーク・インターンシップへの参加を誘われたのはそんな時でした。集合研修では、先生方の話を伺い、大変勉強になりました。地元に戻り、少しでも高齢者農家の力になりたいと思い起業しました。共に励みあって起業した仲間たちと、メンターの関さんに心から感謝しています。農業に意欲のある人を育てていきます。

06 小嵐 不二夫さん 株式会社ピリカ 代表



世界中を旅行やインターンで訪れましたが、訪れる先々で放置ゴミ問題に直面しました。放置ゴミ問題は、各地で常態化されており、より多くの力を集約する必要がありました。そこで、ゴミ拾い推進スマートフォンアプリ「ピリカ」を開発しました。2016年までに世界中で年間1億個のゴミが拾われるプラットフォームとなることを目標としています。起業支援期間中、Open Network Lab 3期最優秀賞など、国際賞を含む多くの賞を受賞したことも励みとなりました。

